

Superintendent of the Board of Education

Keiji Ohashi

川根本町教育委員会教育長

# 大橋慶士

「生きる力」を育み、「確かな学力」の習得を目指す



「本町の地域性を生かした特色ある教育を目指し、町の将来を担う子どもたちが夢に向かって確かな学力を付けるための新たな教育のシステムを実践していきたい」。大橋教育長が力強く就任のあいさつをしたのは約1年前。このたび、学校教育と社会教育の両ビジョンを策定しました。特に教育ビジョンは「キャリア教育」と「RG 授業」を大きな柱に掲げ本町に適した教育の展開を目指しています。本町に適した教育ビジョンとは。そのビジョンに迫ります。

**策定した教育ビジョンの概要を教えてください。**

川根本町総合計画に掲げる教育目標「伝統と未来 心豊かな人を育む千年のふるさとづくり」を進めるため、「学校教育ビジョン」と「社会教育ビジョン」を策定しました。

国や県が示す教育施策は、標準的な市町におけるスタンダードであり、どの市町にも当てはまるといえるものではありません。

教育ビジョンのキーポイントは、「本町に適した教育の展開」です。工夫を凝らしながら、町の良さを生かした教育、そして川根本町ならではの教育を展開するため、学校教育と社会教育それぞれで、教育ビジョンに基づいた教育施策を推進します。

**特に「学校教育ビジョン」は、とても特色ある取組と聞きました。どんな内容ですか。**

「子どもたちは町の宝物」、「教職員は町の財産」という理念に基づいて構築した学校教育ビジョンの名称を「学力向上ネットワークプラン」としました。

これは、町全体の六つの小中

学校を一つの緩やかな学校と見立てて、これまで行われてきた小規模校による個に応じたきめ細かな取組をさらに積極的に推進するものです。

**「子どもたちは宝物」、「教職員は財産」という理念について詳しく教えてください。**

少子高齢化の進む本町にとって、子どもたち一人一人が町の未来を担う大切な「宝物」であることは言うまでもありません。さらに、町内の学校に配置された教職員が、「町の宝物」である子どもたちの教育の中心を担っています。

小規模の学校がそれぞれ単独で存在しているため、教職員一人当たりの児童・生徒数で考えたとき、本町には他の市町の三倍近くの教職員が配置されています。仮に小学校を一つにしたとすれば、配置数が四分の一となるのですから、他市町よりも多く配置されている教職員は、町にとっては大きな財産だと言えます。この町の財産を最大限に生かした魅力的な教育を考えています。

**実際にどのような取組を行うのですか。**



▲「G授業」の様子。子ども目線で地域の素晴らしさを発表していた。

## 宮崎県五ヶ瀬町を視察

「少子高齢化、過疎化、山間地などの悪条件を逆手にとって五ヶ瀬でこそ可能な学校づくりを目指す」という教育ビジョンを掲げ、教育改革に取り組んできた五ヶ瀬町。人口約4千人の町に6つの学校がある。住民約700人に一つの学校があると考え、学校を地域コミュニティの核と捉えた「新しい公共」としての教育を目指している。学習内容によって最適なサイズの学習集団を編成し、大人数の学習から個別学習まで柔軟な対応を目指す「G授業」を導入している。

「キャリア教育」と学校間の連携による授業実践「RG授業」を二つの大きな柱として取り組み、子どもたちの「生きる力」を育むとともに、「確かな学力」の定着を図ります。

基本的な考え方を町内の小中学校全体で共有し、九年間を見通した計画のもとに、教育実践を継続・蓄積し、子どもたち個々の自立に向けた確かな道筋を生み出したいと考えています。

**川根本町で行う「キャリア教育」とはどんなものですか。**

学校では、将来の社会的・職業的自立に向け、基盤となる能力や態度を育てることを通して、子どもたちに必要なキャリア発達を促していくことが重要となります。

す。

したがって、単に卒業後の進路決定のための取組だけでなく、現在作成中のキャリアノートを活用し、キャリア発達を促すための個別支援を計画的に取り組みます。個々に適した「キャリア教育」の九年間の積み上げにより、自己肯定感や自尊感情を育み、学ぶ意欲と積極的な学習態度を培いたいと考えています。

**「RG授業」はどんな取組ですか。**

学校間の連携グループ授業をRG授業と呼んでいます。RG授業は、学校間で連携し、町の財産である教職員を最大限に生かした効果的な学習の場を創り出す取組です。